



中央ウェイ

12月号

将来を担う生徒に求められる力

主幹教諭 上村保志

○基本理念

- ・聴覚に障害のある生徒に対し、6年間の中高一貫型教育を行い、大学等への進学に対応できる確かな学力と調和のとれた人間性を育み、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

○6年間の目標

- ・社会の変化に応じて、たくましく生きる力を身に付け、高い志をもって積極的に学び、自らの能力・適性を生かし、大学等への進学を実現する生徒を育成する。
- ・国際化、情報化の進む社会の一員として、協調性と規範意識と思いやりの心のある、社会に貢献できる生徒を育成する。

これは、本校校長が示した学校経営計画の理念と目標です。木村校長は私たち教職員に対し、年度当初に示します。目指す学校像の実現に向けて、私たちが同じベクトル（方向）を向いて、協働していくことが必要であるからです。そして、特に「社会の変化に応じて、たくましく生きる力を身に付け、高い志をもって積極的に学び、自らの能力・適性を生かし、大学等への進学を実現する生徒を育成する。」ことについては、折に触れ示し、意識付けを行います。

本校は、高等部の卒業生全員が大学等へ進学している聴覚特別支援学校であることが特色であり、大きな強みです。とかく、「大学等への進学」に目がいきますが、その前には「社会の変化に応じて、たくましく生きる力を身に付け」という文言があります。先日、私が担当する英語の授業で「AI（人工知能）」に関する学習がありました。その中でAIが、2045年までに知能のすべての分野で人間を超えるという予測があるという内容がありました。この学習のまとめとして、人間が今後伸ばすべき力について生徒に問うたところ、生徒の思考力はすばらしく、コミュニケーション力の向上等、さまざま意見が出ました。このように自分の考えをもつこと、そして、判断し、行動する力が将来を担う生徒には大切だと考えます。

「東京都教育施策大綱」に、「新型コロナの危機は、私たちの暮らしや働き方に大きな変化をもたらすと同時に、デジタル化の遅れなど、日本社会が抱える構造的な課題を改めて浮き彫りにした」という一文が記されています。予測困難な事態はこれからも起こりえます。それまで当たり前にかけていたことが、できなくなるかもしれません。その際に、生徒が「できない」と嘆くのではなく、「できるようにする」という気概をもてるように、そして、たくましく、豊かな人生を送れるように教職員一同支えていきたいと思えます。今後とも本校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

学校での様子



10月28日(金)・29日(土) 三つ葉祭

10月28日、29日に第17回三つ葉祭が行われました。

今年度のテーマは「Make our new memories～未来へ繋げ！！～」でした。生徒一人一人が役割を果たし、大切な思い出を心に刻むことができたのではないのでしょうか。様々な制約の中での行事となりましたが、生徒の日頃の学習活動の成果を御家庭の皆様にも御覧いただくことができました。中央ろう学校の伝統を繋ぐ、良い文化祭となりました。

11月18日(金) 英語の授業(6年生)

6年生の英語の授業の様子です。

授業では、生徒たちが英文を読み取って英語で答えられるようにすることを大切にしています。教科書等の英文を電子黒板に表示し、文章読み取りを支援しています。また、詳しい解説等も提示され、理解の助けになっています。生徒たちは活発に発言し意欲的に授業に取り組んでいます。

